

令和3年度 学校経営方針（保護者・地域）

人が育つ学校づくりをめざして

—学びがい、働きがいのある学校—

杉並区立高井戸第二小学校

校長 前田佐和子

I 学校経営の基本理念

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策と開校120周年のよりよい実施を目指し、教職員一同日々、知恵を絞り工夫を重ねて学校経営に取り組んできました。ピンチのときこそ、目先のあふれる情報に流されることなく「子どもたちにとって、どうすることが一番いいのか」をじっくり考え、よりよい道を切り開いていくことができたと自負しています。高二小の教職員が常に前向きに、それぞれの立場で一生懸命考え、取り組んだことは、校長として、本当にありがたく思います。

昨年度は感染予防の観点から、多くの学校行事が中止や延期、縮小を余儀なくされましたが、この1年で、乗り越え方をずいぶん学んできました。コロナを恐れ過ぎず、しかし、決して侮らず、高井戸第二小の総合力でこのコロナ禍を乗り越えていきたいと考えています。

目指す学校経営の基本理念は、「学校は、人が育つところ」であることに変わりはありません。高井戸第二小学校の子どもも大人も一人ひとりが、よりよく成長を遂げる場にしていきたいと考えます。学びがい、働きがい、応援しがいのある学校を目指します。

《学びがいのある学校》

学校は子どもたちの健全育成のために存在しています。子ども自身がかけがえのない存在であることを自覚し、自尊感情や他者への思いやりをはぐくみながら、明日への夢が実を結ぶよう日々、磨き合う「学びがいのある学校」となるよう努力します。

一人ひとりが自己の成長を感じつつ、学校で学ぶことに喜びを見出しながら毎日楽しく登校し、今日も頑張ることができた自分に誇りを感じながら家路につく。そんな毎日を地道に積み重ねていく教育活動を実践します。それが子どもにとって「学びがいのある学校」です。

めざす児童像は「昨日より今日、今日より明日輝く子ども」です。

子どもたちが自ら具体的なめあてをもって、日々の学校生活を送れるよう、授業に、生活指導に取り組んでいきます。

児童像に迫るために、以下のことを大切にしていきたいと考えます。

- ・ 自分の成長が実感できること
「できなかったことができた」「昨日より少しわかってきた」
- ・ 最後までやりとげること
「むずかしかったけどやっとできた。うれしい」「次は何に挑戦しようか」
- ・ 今日学んだことがしっかり身についていること
「集中してがんばった」「家で復習してみよう」
- ・ 明日が待ち遠しいこと
「明日は〇〇に挑戦しよう」「早く〇〇がやりたい」
- ・ 基本的な生活習慣が身についていること
「朝ご飯をしっかり食べた」「ゲームやテレビより友達と外で遊ぶことが好き」
「明日の準備は完璧だ」「目指すは5分前行動」

《働きのいい学校》

「人が育つ」とは、子どもだけに当てはまることではありません。子どもにとって「学びのいい学校」にするためには、教職員一人ひとりが専門分野のプロとしての責任と自覚をもち、自ら教師として、職員としてよりよく職務を果たそうとする姿勢が大変重要であると考えます。それぞれの立場、職責において「昨日よりも今日、よりよく仕事（授業）ができた」と職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、高井戸第二小の一員であることが誇れるような「働きのいい学校」を目指します。教職員も「昨日より今日、今日より明日、輝く人」となっていきたいと考えています。

放課後や長期休業中の隙間時間を使って得意分野でのミニ研修など、日常業務の様々な分野で、常にOJTを意識し、高井戸第二小の子どもたちのために、また、自分自身を磨いていこうとする姿勢を良き伝統として大切にしていきます。

教職員が担当する校務分掌においては、仕事の大小に関わらず、一人一人がリーダーシップを発揮し、自分で考え精一杯の工夫をして提案、実施をします。「よりよく」の精神で、組織の一員として学校経営に参画します。それが、昨日より今日輝く教職員の姿です。

《応援のいい学校》

本校は、地域の宝である子どもたちの成長に責任をもっています。一人ひとりの人権尊重と社会貢献の精神をはぐくみ、基礎的・基本的な学力の向上を図って、その個性と想像力を伸ばし、広く国際社会でたくましく生きる力を身につけさせることは、私たち教職員の責務です。

しかし、この目標は学校だけで達成できるものではありません。高井戸第二小の教職員が一丸となって、互いのよさを生かしながら全力で取り組むこと、さらに保護者や地域の

皆様の力をお借りし、多くの大人の力を組織的に結集して、子どもたち一人ひとりを温かく見守り育てていく学校づくりを推進していきます。

子どもの成長を喜び合える学校・保護者・地域の関係を広げつつ、私たち教職員が日々、子どものために最善を尽くし組織として取り組むことが、保護者や地域の皆様のさらなる信頼と多大な協力をいただくことにつながると確信しています。

II 目指す児童像

教育目標

本校では、「生きる力」の育成を目指し、教育目標を設定しています。

- たくましい子
- ◎ かしこい子
- にこやかな子

令和3年度も、「かしこい子」に重点を置き、確かな学力の向上に取り組んでいきます。学力が、将来の児童の幸せの下支えとなることを考えますと確かな学力の定着は本校の大きな課題です。

昨年度は、国・都・杉並区、いずれも学力調査が実施できませんでした。しかし、学び残しのあるR1層の減少は頭打ちで、R2層・R3層、いわゆる中間層の学力向上が本校の課題であることに変わりはありません。また、コロナ禍で痛感した「学校でなければならない学び」、人との関わりから学ぶことで思考力・判断力・表現力をしっかり身に付ける学習活動を大切にしていきたいと考えています。

令和3年度は、杉並区教育課題研究指定校として3年目のまとめの年です。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善を図り、変化の激しい時代、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を、全教科領域で一人一人の児童に着実につけていくことを目指します。研究主題は「主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成」です。

III 学校経営の基本方針

1 人権尊重の精神と豊かな心の育成

穏やかに楽しい授業ができる高二小を支えているのは、実はこの柱です。

生命の大切さを知っていること、自分を大切にすること、自分と同じように他者を大切にすること、一人ひとりがかけがえのない存在として尊重されること、これらのことをすべての子どもにしっかりと根付かせたいと考えています。いじめや体罰、差別や偏見のない人権尊重の精神に満ち、豊かな心が育っていく学校・学級づくりを目指します。

そのために、以下の点に取り組んでいきます。

(1) いじめ・不登校の根絶と生活指導の充実

子どもの立場に立って愛情深く、成長のために必要な指導をしていきます。「先生が認めてくれた、大切にしてくれた」と子どもが実感できる学級経営、学校経営が問題解決の基本であると考えます。自己肯定感の高い子どもを育てるには、その子のよさをまず、認め、ほめることが大切です。問題行動の指導や不登校傾向の解決には、担任だけでなく組織的に取り組む学校づくりに力を注いでいきたいと考えています。誰が担任をしても、学校全体で知恵を出し合い、組織的に解決、改善していくしくみをさらに強化していきます。

① 特別支援夕会・生活指導夕会と特別支援全体会

問題傾向や配慮が必要なケースについては、毎週月・金の夕会の冒頭に情報交換を行います。5月・2月の特別支援全体会で全教職員が情報を共有し、共通理解と同一歩調で指導に当たります。

② 定例校内委員会・臨時校内委員会等教育相談の充実と関係機関との連携

定例校内委員会（校長、副校長、特別支援コーディネーター、分掌責任者、養護教諭、特別支援教室専門員）を月一回確実に実施します。また、緊急性のある課題を抱えた子どもの学級担任も加わっての臨時校内委員会も開き、具体的な対策を講じていきます。ケースによっては、SSW や子ども家庭支援センター、児童相談所、心理相談員、近隣中学校などとの連携をとりつつ、多方面からの働きかけにより問題解決を図ります。

③ 「すばる」を提出している児童について

4月中に保護者との面談をすることは必須です。保護者は、「こういうことに配慮してほしい」という思いから提出してくださっています。保護者との連携を密にとって、児童への適切で円滑な対応をしていきます。

(2) 明るい挨拶の行き交う学校に

昨年度、120周年の最上級生として6年生が自主的に挨拶運動に取り組み、その輪が下級生にも広がっていきました。笑顔いっぱいの挨拶は、温かい人間関係をはぐくむ基本と考え、引き続き、高井戸第二小学校を明るい挨拶のあふれる学校にする取組を行っていきます。子どもたちが挨拶するようになるには、まず、大人が率先して笑顔の挨拶をしていきます。門が二つ、昇降口も四つある広い学校ですが、看護当番等のしくみを活用して、改めて子どもたちを笑顔で迎えることを大切にしたいと考えています。

(3) 豊かな心を育成するための道徳教育の充実

道徳教育は全教育課程で実施していくものですが、その中で、週1回の道徳の時間は学級指導とは異なり、意図的計画的に道徳的心情をはぐくんでいく大切な時間です。研修の成果を生かし、学級指導と道徳授業を混同することなく、子どもの心を意図的計画的にたがやしていきます。夏季休業中には、例年ご指導をいただいている日浦克子先生を講師として、校内研修を行います。各学年で指導案を準備し、研修を深めます。

(4) 生命の大切さを実感できる環境の整備

高井戸第二小学校には、広い校地の中に十分な広さの充実した教材園があり、教材等の栽培計画がしっかり計画されています。ビオトープの周囲の草取りに環境委員会の先生方と児童が大変頑張ってくれました。環境委員会は今年度から飼育環境委員会として活動の幅を広げます。子どもたちが身近に生命にふれる環境を整え、命の大切さを実感できるよう、植物を育てる体験的な活動や動植物に触れる機会を大切にしていきます。

学校支援本部の環境サポーターの皆様の応援を今後もいただきつつ、委員会だけでなく、いろいろな学年の教材園・ビオトープの活用を進めていきます。

2 確かな学力と体力の定着

(1) 基本的な生活習慣・学習規律の徹底 ～「たかにハンドブック」を活用して～

子どもたちが楽しく学び確かな学力を身につける前提として、学習用具の準備を整える、チャイムで着席する、話をしっかり聞く、発言のルールを守るなどの学習規律がしっかり定着していることが大切です。学習規律に関し、学級や学年でばらつきがあつては、子どもは混乱します。また、若手教員の割合が増えていく現状にあつては、当たり前のことを当たり前に、全校が同一歩調で取り組むことは、学級の荒れを未然防止するために大変有効であると考えています。

「たかにハンドブック」をもとに、若手教員もベテラン教員もその他の職員も、みな同じ姿勢で子どもの指導に当たっていく仕組みを確立していきます。

(2) 読書活動の推進

しっかりした学校図書館経営計画・図書館全体計画があり、学校司書が毎日図書室にいてくださる。広く明るい図書室に、新しい本がきれいにディスプレイされている。昨年度は保護者ボランティアによる読み聞かせや学級文庫の選本など、コロナ禍のためお願いできませんでした。令和3年度は感染予防体制が確保できる内容から復活させていきます。読書は子どもの心を耕し、確かな学力の基盤となります。読書活動の推進に、力を注いでいきます。

平成30年度に「たかにおすすめの本」が選本されるとともに、各学年の読書目標を設定し、年に2回の表彰を通して子どもたちの読書に対する意欲を引き出す取組を始めています。表彰を励みにしてくれる子どももいます。令和2年度は、約50%の児童が目標を達成しました。図書委員会の読書旬間の取組も、子どもたちは楽しみにしています。様々なジャンルの本との出会いがあるよう、読書指導を充実していきます。

(3) 学習習慣の確立（家庭学習の習慣の徹底）

「生きる力」をはぐくむことを重視する理念は新しい学習指導要領にも生きています。日々の授業で学んだ、つまずきやすい内容を繰り返し反復して学ぶことは、確かな学力

をはぐくむために重要ですし、小学校低・中学年までに学習習慣を確立することも求められています。今後も保護者と協力し、学力の確実な定着を目指します。

(4) 体力向上への取組

子どもの体力が必ずしも高くない実態を受け、平成 29・30 年度から、校内研究で体力向上に向けた取組の推進をしてきました。少しずつですが、体力調査の結果に手ごたえが表れています。せっかく 2 年間取り組んだことが高二小にしっかり根付くよう、作成した体育科の年間計画は今後もしっかり使っていきます。1・2 年生の「流星ゲーム」では 2 年生がゲームのコツを 1 年生に教え、子どもたちの投力の向上に効果がありました。

また、運動の日常化には今後も取り組んでいきます。たてわり班の活動も活かし、校庭での遊びも豊かにしていきたいと考えています。校庭各所に貼ってある『短なわカード』なども大いに活用していきます。

昨年度は実施できませんでしたが、令和 3 年度は、6 月 17 日に「大切なすいみん講演会」を 2・4 年生に実施します。基本的な生活習慣の確立は、確かな体力の基盤となるものと考えます。

(5) 小中一貫教育の推進

子どもは保護者・地域の宝です。自分のまちに誇りをもち、未来を担うしっかりした「生きる力」をもった人間を 9 年間の義務教育で育てること、それが地域に根差す公立学校である高井戸第二小学校の使命です。西宮中学校を核にして本校と松庵小学校で、目指す人間像を共有し、推進していくのが小中一貫教育です。コロナ感染予防対策を十分に考慮し、可能な範囲で実施します。Q-U には、学級経営をよりよくしていくために取り組みます。

「学びをつなげ、切れ目のない教育を進める」ことを目標に三校の相互理解を深め、協力協働して地域の宝である子どもたちの育成をするため、昨年度までの課題を十分受け止め、進めていきたいと考えています。

3 教師の授業力の向上

新型コロナウイルス対策により、多くの行事を中止せざるを得ない今年、「教師は授業で勝負する。」ことに注力し、互いの授業力を磨きあう場を校内で充実させていきたいと考えています。教師の授業力向上は個々の教員の自覚のみに頼っては限界があります。本校の課題である若手教員の育成を契機とし、学校全体の授業力向上と、互いに学びあい高めあう職場の活性化を目指します。

(1) 週の指導計画の記入と提出

日々の授業を充実させるために教材研究や準備を十分に行い、意図的計画的な教育課程の実施をしていきます。そのために週の指導計画（週案）等の作成が大変重要です。必ず前の週の金曜日には作成し、学年会で得意を生かし合って教材研究や行事等の確認をします。

スクールサポートスタッフの配置も 2 年目になりました。教材の作成を手助けしていただき、効率的に授業準備を進めます。

(2) 授業改善推進プランの活用

国や都・区の学力テストの結果分析を生かし、授業改善推進プランは各自が定期的に見直します。7月30日にはQ-U研修会、学力向上校内委員会が予定されています。夏季休業中に授業改善プランを作成し、具体的な授業改善につながる取組にしていきます。

良い授業の実践に深い児童理解は欠かせません。そのためには、算数科少人数指導では、担当するグループを固定し、どの子がどこでつまづきやすいのか、また、伸ばしたい力は何か、一人ひとりの学習の実態を十分に把握し、授業改善につなげます。

(3) 同僚教員から学ぶ

互いの授業を見合って学ぶことは、大変有効な方法です。互いに授業を見合って、自己の授業力を伸ばしていきます。年3本以上、研究授業以外に他の先生方の授業を参観し、よさを学びあう機会とします。

4 開かれた学校づくり（健康・安全・安心）の推進

(1) 保護者や地域対象に、年度当初に学校経営方針を発信し、周知するとともに年度末には教育活動の報告を行って、1年間の教育活動の成果と課題を説明し、学校に対する理解と協力を得ていきたいと考えています。学校評価の結果に基づいた改善の具体的な方針を明確に示し、保護者・地域関係者・市民の学校に対する理解を深め、さらなる充実にむけて協力が得られるようにします。

(2) コミュニティスクールとして、今後も保護者や学校支援本部、町会など地域の皆様の力を借り、地域運営学校の利点を生かした学校経営を強力的に推進していきます。

5 サービスの厳正

私たち高井戸第二小学校の教職員は、自己の仕事に誇りと責任、熱意と喜びをもって組織として一丸となり、目標に向かって努力する集団でありたいと考えています。子どもの前で恥じるところのない社会的に尊敬され信頼される教職員になるためには、当たり前のことが当たり前に行えることが大切です。サービスの厳正について自覚をもって取り組んでいきます。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| (1) 法令等の遵守 | (6) 利害関係者との接触等について |
| (2) 体罰の厳禁 | (7) 勤務管理の適正化の徹底について |
| (3) セクハラ・わいせつ行為の防止 | (8) 会計事故の防止について |
| (4) 自動車通勤について | (9) パソコンの適切な活用について |
| (5) 個人情報および公文書等の管理 | (10) 兼職・兼業について |